

「変化」から得られる成長

巻頭言



令和2年度特許庁技術懇話会 広報幹事 土谷 秀人

今年度の特技懇広報幹事の土谷秀人と申します。広報幹事は、編集委員会のメンバーとして、特技懇誌発行までのスケジュール調整や特技懇誌を皆様の元へ配送するための業者とのやり取り等を担当しております。特技懇誌の内容に直接関わっているわけではありませんが、一人でも多くの読者の方に特技懇誌を楽しんでいただけたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の特技懇誌の特集は「激動の意匠」ということで、意匠法の改正やデザイン経営に関する取組等、意匠を取り巻く環境の変化についての記事が掲載されております。本号の巻頭言では、「変化」という観点から、僭越ながら、私自身のことについて書いていこうと思います。

私は現在入庁三年目の審査官補です。そのため、一人前の審査官になるべく、日々成長していかなければならない立場にいます。入庁した時は右も左も分かりませんでした。審査官補コース研修や前期研修、それ以外でも課室で参加させていただいた学会聴講や工場見学等を経て、法律や審査の仕方、そして担当技術を学ぶことで、徐々に審査業務ができるようになりました。もちろんまだまだ発展途上であり、多くの先輩方にご迷惑をおかけしながらご指導いただいている毎日です。

そんな中、私も年次が上がるにつれて、今までは自分が教えられる側でしかなかったのに対し、自分が教える側につくことも出てきました。課室に二年以上所属している経験を活かし、後輩や異動者に対して技術説明や業務の引継ぎを行う等、そのような機会が確実に増えてきました。そういった「変化」によって、教える側としての“責任感”が芽生え、自分自身が少なからず成長できたことを実感しております。

また、課室内での仕事に加えて、今年度は特技懇常任委員会のメンバーとして広報幹事を務める機会もいただきました。この「変化」により、普段の審査業務ではあまり行わないような外部の方とのやり取りや調整作業等を経て“社会

人力”という点でも成長するチャンスを得ていると思っております。

ただこれらの成長は、決して自分一人だけで得られたものではなく、周りの方々の助けがあつてのものだと感じております。課室内での仕事に関しては、技術説明や業務の引継ぎを今まで担当してきた先輩方を見本にさせていただきながら、時にはアドバイスをいただくことで、より相手に伝わりやすい説明や引継ぎを実現できていると思ひますし、特技懇広報幹事としての作業に関しては、常任委員会や編集委員会の皆様、そして執筆者や業者の方々の助けのおかげで、スムーズな特技懇誌発行作業を行えていると思っております。このように、自身の成長は周りの方々の助けがあつてこそのものであり、そうした中で重要になってくるのは、周りの方々と良好な関係を築くことだと私は考えております。良好な関係を築くことで、私側からの話しかけやすさや相手側の接し方もどちらも良い方向に変わっていくのではないかと思っております。ここで、「変化」という観点では、周囲の環境（特に周りの方々）というのも日々変化していくものです。そうした「変化」の中でも良好な関係を築いていけるように、私は常に周りの方々と明るくそして多くのコミュニケーションをとることを意識しており、そうした意識が、“対人力”という点で、さらに自身を成長させていると感じております。

このように、「変化」に対応していくことが、自分自身を成長させると私は考えております。また、自身の成長はたくさんの方々の助けがあつてのものだと改めて気づかされました。この場を借りて皆様には感謝申し上げます。今後も引き続き成長していき、周りの方々からこれまでに頂いた御恩を還元できるように、自分自身も他の誰かの成長に寄与できる人になっていきたいと思っております。

ここまで読んでいただき誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。それでは本号特技懇誌ぜひともお楽しみください。